

# TICAD8 公式サイドイベント開催報告

2022年8月、第8回アフリカ開発会議（TICAD8）において、ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、2つのサイドイベント「健全な土壌とアフリカの食料安全保障ー環境再生型農業の可能性」と「アフリカにおける農業普及システムの多元化とデジタル化ー世界的食糧危機に求められる農業変革」を開催しました。



## 健全な土壌とアフリカの食料安全保障

### 環境再生型農業の可能性

#### イベントの概要と目的

本イベントは、2022年8月5日、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）と共同で開催し、世界各国からオンラインで330名が参加しました。SAAが推進する環境再生型農業（Regenerative Agriculture: RA）における各専門家の経験/見識を共有する貴重なプラットフォームとなりました。アフリカの小規模農家が実践しやすい環境再生型農業の農技術ポートフォリオや普及アプローチに焦点を当て議論され、農業生産性の向上と気候変動緩和のためには、健全な土壌がいかに重要であるか認識が共有されました。

#### 現場からの報告

SAAエチオピアのFentahun Mengistu事務所長と、ガーナの不耕起農業センターのKofi Boaディレクターが、環境再生型農業における現場での経験を共有しました。Fentahun事務所長は、エチオピアは農業立国でありまた多くの生物資源に恵まれながら、生物/非生物学的要因、社会経済的要因、改良農業技術の普及の遅れ、土壌の劣化などにより、長年、農業開発の進展が妨げられてきたと指摘しました。そして、エチオピアをはじめとするアフリカ各国に適したRA戦略への転換を求め、温室効果ガスの排出削減に主眼を置くのではなく、環境悪化の抑制、資源利用の効率化、生産性の向上、

農業における環境負荷の低減を目指したいと述べました。

Boa氏は、不耕起・最小耕起農法などを通じて保全型農業を現地農家に普及してきた経験・教訓を発表しました。

Boa氏のチームが成果を上げた戦略として、適切な作物被覆、植え付け時のマルチング、農家の作物残渣焼却の廃止、作物の多様化（間作・輪作）、樹木間の作物栽培（Alley Cropping）、樹木の適切な伐採、畝間と等高線プランニングなどを挙げました。また、環境再生型農業を農家が導入するための3ステップとして、1.保全農業の概念について農家の理解を得る、2.成功事例を実演する、3.実践的な訓練を行うことを示しました。

#### イベントの成果

本イベントを通じて、SAAが推進する環境再生型農業は、土壌肥沃度を高め、劣化した土地を回復させるための大きな可能性を持つことが明らかになりました。環境再生型農業の普及を通じて、食糧安全保障を向上させ、アフリカが、気候変動との戦いに屈することなく、持続可能な開発においてリーダーシップを発揮できるよう、SAAは、今後もさまざまなパートナーと連携し活動していきます。



本イベントの講演動画・資料は、上記QRコードからご覧ください。

### Keynote speakers

#### Prof. Rattan Lal

オハイオ州立大学土壌学特別栄誉教授。ラタン・ラル炭素管理・貯留センター創設者・所長



Lal教授は、健全な土壌を維持し、RAへの転換を希望する農家に対し、そのコストに対する補償を行うことの重要性を強調。政策立案者、政府関係者、民間企業に対し、農家へのインセンティブ付与を行うよう呼びかけました。

#### Prof. Ken Giller

ワーゲニンゲン大学アグロエコロジー・システム分析センター（WaCASA）植物生産システム教授



土壌肥沃度と熱帯マメ科植物における窒素固定を研究する専門家、作物・家畜農業システム内における資源の空間的動態とそれらの相互作用に重点を置いて研究しています。講演でギラー教授は、アフリカの気候、土壌、社会経済条件の多様性を明確に理解した上で、対象地域に特化した土壌肥沃度管理計画を設計することの重要性を強調しました。

### Speakers

- Ruth Oniang'o (SAA会長)
- 小山 修 (JIRCAS理事長)
- Fentahun Mengistu (SAAエチオピア事務所長)
- Kofi Boa (アフリカ不耕起センター (CNTA) ディレクター)
- Leigh Winowiecki (CIFOR-ICRAF 土壌と土地の健全性に関する国際研究およびAction 4 Soil Health連合の共同リーダー)
- 中村 智史 (JIRCASプロジェクトリーダー)
- 飯山 みゆき (JIRCAS情報プログラムプログラムダイレクター)
- Edmundo Barrios (国際連合食糧農業機関 (FAO) 作物生産・保護部門 農業担当官)
- Tilahun Amede (アフリカ緑の革命のための同盟 (AGRA) レジリエンス・気候・土壌責任者)
- Sani Miko (SAAナイジェリア事務所)
- 北中 真人 (SAA理事長)

(敬称略)

# アフリカにおける農業普及システムの 多元化とデジタル化

## 世界的食糧危機に求められる農業変革 イベントの概要と目的

本イベントは、2022年8月26日、国際食糧政策研究所 (IFPRI) と農業普及サービスのためのアフリカフォーラム (AFAAS) と共同で開催しました。アフリカの小規模農家は、気候変動やコロナウイルスの蔓延といったグローバル危機の影響を受け、社会経済、環境などさまざまなリスクに直面しています。そのような状況下、近年急速に拡大し、農業普及に重要な役割を果たしているのがデジタル技術です。昨今、少なからぬ農家が、デジタルツールを用いて、多様なアクターとつながり、マーケット、改良技術、金融サービスなど様々な情報にアクセスしています。デジタルを活用した多元的な農業普及活動 (従来型の公的な農業普及制度だけに依存しない、民間や農家自身による多様な普及活動) を強化することは、アフリカの小規模農家のレジリエンスを高めることにつながります。本イベントでは、アフリカの農業にデジタル化を推進する重要性を共有し、現場の最新動向、優れた事例などに意見交換されました。

### Key Discussions

IFPRIのシニアリサーチフェローDavid Laborde氏は、肥料価格の高騰がアフリカの食糧問題と小規模農家に与える影響について最新分析を報告しました。特にサブサハラ・アフリカでは、肥料の大部分を輸入に頼っており、昨今の価格高騰が地域の食糧安全保障を脅かしていると述べました。そして、効率的な施肥、代替農法、タイムリーな市場情報などの知識と技術を農家に提供する農業普及システムを構築する重要性を強調しました。同じくIFPRIのシニアリサーチフェローであるKristin Davis氏は、農業普及サービスのパフォーマンスには、統治構造、資金調達、組織と運営、顧客の関与が影響すると指摘し、また、農業普及システムへの投資拡大には、政府と開発パートナーの協力を拡大する必要があると述べました。SAAの戦略的パートナーシップMel Oluoch事務所長は、アフリカの農業普及におけるデジタル化の取り組みについてSAAの経験を共有しました。e-エクステンション・プラットフォームの構築は農業普及に不可欠であるとし、普及員の不足を補う意

味でも重要であると述べました。農業普及のデジタル化について、1) デジタル・プラットフォームは、現場レベルにおいてコスト削減に寄与する。2) e-エクステンションとe-ラーニングの活用は、農業普及へのアクセスを促進する、とその効果を指摘しました。

国際熱帯農業研究所 (IITA) 中央アフリカ・天然資源管理 R4DディレクターのBernard Vanlauwe氏は、SAAと共同で開発したスマホアプリ

「Akilimo」をナイジェリアのキャッサバ農家に普及した事例について紹介しました。同アプリは、最先端の分析技術が搭載されており、キャッサバ生産者が生産性と利益を最適化できるよう、その土地に合った農法を提供するもので、現在、1万人以上のナイジェリアのキャッサバ生産者 (うち47%が女性) が登録していると述べました。

SAAウガンダJoseph Bbemba副事務所長は、デジタル技術を活用し農家同士の助け合いを促進する農業組合「ワンストップ・センター (OSCA)」の事例を紹介しました。OSCAの一つであるZirobwe Agaliawamu Agri-business Training Association (ZAABTA) では、メンバー農家が自身の農業投入財や生産物を管理するために「EzyAgric」アプリを使用するほか、農産物の取引においてWhatsAppを活用している点を紹介しました。

本イベントを通じ多くの講演者が指摘したのは、ICT技術単独では十分でないという点です。デジタル技術とあわせ、それを使いこなすためのキャパシティービルディングや、民間・公的機関、農家組織などのあらゆるステークホルダーの関与や連携が必要であることが確認されました。

### イベントの成果

本イベントを通じて、アフリカ農家の農業普及サービスへのアクセスには、デジタル技術の活用がカギとなることが明らかになりました。SAAは今後も、農業バリューチェーン関係者とパートナーシップを強化し、小規模農家の最適な技術アクセスを可能にするため、農村コミュニティにおける多元的な農業普及を促進していきます。

### Special address

#### Dr. Beth Dunford



アフリカ開発銀行  
農業・人材及び社会開発担当  
副総裁

基調講演において、ダンフォード氏は次のように述べました。「気候変動、Covid-19、ロシアによるウクライナ戦争は、アフリカの農業発展に悪影響を及ぼしています。大きな課題に直面する今、収量を向上させ、生産効率を上げ、コストを抑えながら付加価値をつけ、透明性と持続可能性を向上させなければなりません。デジタルを活用した多元的な農業普及サービスは、まさにそれを実現するものです。農業分野のデジタル化技術の普及には、金融システムとの連携と使いやすいデジタルツールの開発が鍵となるでしょう。」

### Speakers

- Ruth Oniang'o (SAA 会長)
- Johan Swinnen (IFPRI 事務局長)
- Silim Nahdy (AFAAS 事務局長)
- 笹川 陽平 (日本財団 会長)
- David Laborde Debucquet (IFPRI シニア・リサーチフェロー)
- Kristin Davis (IFPRI シニア・リサーチフェロー)
- Joseph Bbemba (SAA ウガンダ事務所 副所長)
- Dr. Bernard Vanlauwe (IITA 中央アフリカ・天然資源管理R4Dディレクター)
- Dr. Mel Oluoch (SAA 戦略パートナーシップ事務所長)
- Max Olupot (AFAAS プログラム・ディレクター)
- 内藤 智之 (神戸情報大学院大学 副学長)
- Yvonne Pinto (世界銀行 デジタル農業イノベーションリードスペシャリスト およびAline Impact社マネージング・ディレクター)
- 天目石 慎二郎 (JICA 経済開発部次長・農業・農村開発第二グループ長)
- Yenenesh Egu (エチオピア連邦農業省 農業普及局長)
- Charlotte Hebebrand (IFPRI コミュニケーション・広報局長)
- 北中 真人 (SAA 理事長)

(敬称略)

## Walking with the Farmer

SAA HP: <https://www.saa-safe.org/news/> Email: [info@saa-safe.org](mailto:info@saa-safe.org)

 @saa\_africa  @saa\_safe\_official  Sasakawa Africa Association

本イベントの講演動画資料は、右記QRコードからご覧ください。

